



はーとふるメッセーじ2003



特選作品紹介
第 3 回

作文・小学生の部



にしむらありさ
西村愛璃沙さん
(亀山小学校4年)

本当の思いやりを 考えて

わたしは、道徳の時間に「席があいているのに」という話を勉強しました。電車の中で目の不自由な人が席があいているのにすわらないという話でした。男の子が、自分ではいえないから、となりにお父さんにたのむと、お父さんがすつと動いて話をします。でも、おじさんは、「ここにこした顔をしていました、すみません。おじさんには、自分の力で電車から

おりたい」という気持ちがあったよつです。

私は絵をかいたり、プリントを整理するのが、はやい方ではありません。そのとき、「手伝ってあげる」と声をかけてもらうのはうれしいですが、自分の力でやりたいと思うこともあります。そのおじさんも、そうだったのです。でも、そのおじさんは、声をかけてもらって、とてもうれしかったよつです。わたしもそんなことがあったことを思い出しました。

わたしとわたしの友達2人で公園で遊んでいたときのことです。わたしは、すべり台にのぼ



つてあたりを見て楽しんでいました。すべり台からすべると、いきおいをつけすぎて、ころんでしまいました。1人の友達が「いそいですべり台からおり、わたしに、
「だいじょうぶ。」と声をかけてくれました。もう1人も走って、「だいじょうぶ。」と2人に声をかけてもらいました。まわりでサツカーをしていた人は、わたしをじろじろ見ていました。わたしは、なんだか、はずかしくなってきました。
そして、よごれたスポンをあらうときに、水をだしていてくれていた友達が、
「長スポンでよかつたね。スカートだったらけがをしていたかもしれなかつたね。」
と、わたしの足を気にしてくれていたのです。
友達の家へもどるときも、はげまそつとして、おもしろいことをいってわたしを、楽しませてくれました。

「みんなは、楽しんでいるから、いつまでも気にしていただめだ。」と思ひみんなといっしょに遊びました。

あの「だいじょうぶ。」の一言は、よくある言葉だけど、その言葉は友達ともつと仲よくされる道を一歩進めてくれた大切な言葉でした。障害がある人は人の力をかりないとできないこともあるけど、できることは、自分でしたいという気持ちをもちたいことが、わかりました。人にたよってばかりじゃなくて、自分でなんとかすることも大事だと思います。お父さんはさいごに「目の不自由な方だけでなく、だからこそできるだけ自分の力で何でもしたいと思ってい

るんだろつね。そういう気持ち

を大切にしてあげることが、本当の思いやりだと思わないかい。」といいました。思いやりというのは、何かをしてあげることだけじゃなくて、まずは、その人の気持ちをわかってあげることからはじまると思ひました。私も本当の思いやりをこれから考えていこうと思ひます。

選評

友達といっしょにいるあなたのうれしい顔が見えてきます。あなたたちのやさしい交わりにほっとします。人と人を結びついたり、人の心をほぐしたりする、温かい言葉や心を人はみんな持っている、それを出し合える交わりをしていきたいという思いを強くします。「本当の思いやり」や1人ひとりの力を生かすことの大切さを考えていきたいです。

標語・一般の部

J A 東びわこ
人権啓発課

親切を

ボタンでつないで

世界リレー